

(総括評価表〔付表:戦略14〕)

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦 略	【戦略14】熊本アカデミズム ～「知」の集積を「地」の活力につなげます～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				4	8	9事業	17事業	68,035千円	206,518千円

1 戦略の内容

**(1)現状と課題**  
 本県は、多くの大学が立地し、生命科学や半導体分野の企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、産学官連携により優秀な人材や技術を集積し、研究開発を活性化させる取組みが必要です。また、グローバル化が進展する中、将来の活力を生み出す若者が海外で学ぶチャレンジへの支援などが求められています。さらに、熊本が留学生から選ばれるようなまちづくりを積極的に進める必要があります。

**(2)概 要**  
 熊本には多くの大学が立地し、生命科学や半導体などの分野での企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、大学や企業の研究開発を活性化させる取組みを進めます。  
 また、県内の大学などに海外から多くの留学生が集まる、世界に開かれた活気あるまちづくりを進めます。  
 さらに、夢を持ち海外へ挑戦する若者を支援し、グローバルな人材を育成するなど、「知」の集積を図り、それが「地」の活力となって世界とつながり発展する熊本づくりを進めます。

**(3)体 系** (単位:千円)

① 「知」世界の集積	◆「知」を集める〔施策69〕 ～世界的な知の集積～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	1事業	5,627	2事業	27,004
	◆研究開発部門と大学院を誘致する〔施策70〕 ～産学官連携による最先端技術の集積～ 【担当部局:総務部・企画振興部・環境生活部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	3事業	51,911	3事業	73,412
	◆留学生から「選ばれる」まちを創る〔施策71〕 ～留学生とつながる仕組みづくり～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	1事業	914	3事業	7,246
② 人材の育成	◆国際人を育てる〔施策72〕 ～夢を持ち海外へ挑戦する若者への支援～ 【担当部局:総務部・企画振興部・教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	4事業	9,583	9事業	98,856

2 戦略の評価

**(1)指標の推移・分析**

指標〔単位〕	策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
① 研究開発部門の企業立地件数〔件〕	9 (H20～H23)	6 <60.0%>			10 〔件/4年(累計)〕	研究開発部門の誘致に力を入れた結果、H23年度の2件を上回るとともに、H24年度の目標2～3件も大きく上回った。
② 海外高校への留学生数〔人〕	10 (H23)	19 <19.0%>			100 〔人/4年(累計)〕	本県の高校生の状況としては、海外大学進学や留学に対する意識が高くないと考えられるが、説明会の実施等により、意識の醸成が少しずつ図られていると見込まれる。
③ 英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1～中3)の割合〔%〕	46.9 (H23)	48.4 <+1.5>			毎年度、前年度の割合を上回る〔% (単年)〕	小学校外国語活動の円滑な実施、中学校での授業時数の増加及び英語音声CD「I CAN DO IT!」の活用等による授業改善の成果と見込まれる。
英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1～中3)の割合〔%〕	46.4 (H23)	47.5 <+1.1>			毎年度、前年度の割合を上回る〔% (単年)〕	
④ 留学生の数<再掲>〔人〕	575 (H23)	655 <65.5%>			1,000人以上 〔人/年(単年)〕	〔H25.5.1現在の数値〕 各大学が留学生増加に向けた取組みを積極的に進めているためと推察される。

(2)平成24年度の主な成果	(3)平成25年度の推進方針・推進状況	(4)戦略を推進する上での課題	(5)今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●産業技術センターものづくり室に研究者2名を採用し、有機薄膜関連の研究開発の加速化に貢献。</li> <li>●知の結集のシンボルとして、五百旗頭真氏を熊本県立大学の理事長に招へいするとともに、「くまもと未来会議」に新たな委員が参画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後成長が予測される研究分野において、“ポストドク”等の優秀な研究員計3名を採用。</li> <li>●五百旗頭氏等の活動を発信する場の確保、県政の課題解決等につながる研究に必要な人材の招へい。</li> <li>●「くまもと未来会議」及びリレー講演の開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●優秀な人材の受け皿となりうる大学との関わり方についての方向性の検討。</li> <li>●新たな知の結集のシンボルの招へいに関する分野・人材の検討。</li> <li>●「くまもと未来会議」の新たなテーマや委員の選任に関する検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知の結集のシンボルとなる人材を招へいし、先駆的な研究・開発などの活性化、世界に飛躍する人材の育成を推進。</li> <li>●様々な知が行き交い、新たな知が生まれる知の拠点となるよう推進。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業誘致に向けたターゲット企業の絞り込み、重点的なアプローチ等により、研究開発部門6件の企業立地を達成。</li> <li>●水俣市が実施した大学院の設置を検討する「環境まちづくり推進実現事業」への補助を実施し、高等教育・研究機関の設置可能性等検討に係る取組みが促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ターゲット企業の絞り込み、知事トップセミナー等を実施し、関係部局が連携した効率的な誘致活動を実施。</li> <li>●熊本県立大学が国立水俣病総合研究センターと連携大学院協定を締結。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業が最先端のものづくりに取り組める開発環境の構築。</li> <li>●連携大学院協定を通じた着実な連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究開発部門10件の企業立地を達成。</li> <li>●大学や研究機関等との着実な連携により、水俣市において知の集積が図られるよう支援。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「くまもと都市戦略会議」で「留学生支援のためのワンストップ窓口の設置」等を検討し、H25年度から事業実施が決定。</li> <li>●大学コンソーシアム熊本や九州グローバル産業人材協議会等との共催による留学生向け就職合同説明会に、県内企業等19社と留学生132人が参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学コンソーシアム熊本が実施する「留学生支援のためのワンストップ窓口設置」等の取組みが円滑に運営できるよう支援。</li> <li>●県内の大学で学ぶ留学生を対象とした海外に進出する中小企業の就職合同説明会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学コンソーシアム熊本が実施する留学生支援の進捗状況の適宜把握。</li> <li>●就職合同説明会における、より多くの企業及び留学生の参集と、企業側と留学生側双方のニーズの的確な把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「留学生が1,000人」の達成に向け、留学生支援ワンストップ窓口の設置、留学生ネットワークの構築等を支援。</li> <li>●留学生が住みやすく、学びやすい環境を実現し、満足度向上、留学生数の増加を推進。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界への飛躍を志す県内企業や芸術家、学生などの海外進出を支援する官民出資によるファンドを創設。</li> <li>●H24年度熊本県学力調査の結果、英語が「好き」と回答した生徒は48.4% (H23:46.9%)、英語が「分かる」と回答した生徒は47.5% (H23:46.4%) で、年度目標を達成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドの周知を図り、県内企業などを広く巻き込みながら寄附金の協力を得る取組みを実施。</li> <li>●くまもと若手芸術家チャレンジ事業と熊本県立モンタナ大学高校生派遣事業により、海外へ挑戦する若者を支援。海外大学進学を推進する「海外チャレンジ塾」を新たに開講。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●積極的な広報展開、企業の個別訪問等、より多くの寄附金の協力を得る取組みや、ファンド充当事業の拡充の検討。</li> <li>●海外へ挑戦する意識の醸成及び進学の実績づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの寄附金の協力を得るための広報展開やニーズに応じた基金充当事業の検討。</li> <li>●私立で累計40人、公立で累計60人の海外高校への留学を実現。</li> </ul>